

ハイデルベルク教理問答説教

聖書箇所：ヨブ記3 8章1:38; ローマの信徒への手紙5章1 2～21節

説教題：“神様の意図と人間の墮落”

詩編歌

頌栄 - 詩編33編 1,5

説教の前 - 詩編85編 3,4

説教の後 - 詩編33編 1,3,4

頌栄 - 詩編4編 2,3

6問：それでは、神が人間を、そんなに悪く、心の捻じれたものに、創造されたのでしょうか。

答：いいえ、そうではありません。

神は、人間を、善く、また、ご自身の像に似せて、すなわち、まことの義と聖とに於いて創造されました。それは、人間が自分の創造主である神を正しく認識し、心から愛し、永遠の祝福の中に神と共に生き、神をほめたたえ、讃美するためであります。

7問 それでは、そのような、人間の腐敗した性質は、どこから来たのですか。

答：楽園における、私たちの最初の祖先、アダムとエバの墮落と不従順からです。そこで、私たちの本性は、毒されてしまったので、私たちは、すべて、罪の中で生まれ、生まれるのであります。

8問 しかし、私たちは、善に対しては、全く無能力であり、あらゆる悪に傾く傾向を持つほどに、腐敗しているのでしょうか。

答：そうです。私たちが、神の御霊によって、再び生まれるのではなくれば。

私達は、先週、“悲惨”という意味を理解する為に、私たちが”どのように創造されたのか”を学びました。“私たちの元の姿”に関して学びました。私達は、本来、善い存在として創造されました。問6に基づいて言うと、私達は、“善く”、“神様の象に似せて”、“真の義と聖とに於いて造られたのです。悲惨という意味は、それらから離れた状態です。

論理的な質問

それで、次のような質問をすることが出来ます。“なぜ”ですか。私達は、なぜ、“元の姿”から離れて、悲惨の状態に落ちてしまいましたか。”神様は、私達を罪だらけの存在、罪を犯すべき存在として造られたのでしょうか。その答えが、今日学ぶ主題です。

聖書が教えている“神様の意図”と“人間の墮落”の問題

今日私達は「ハイデルベルク教理問答」に基づいて二つの事を学びます。一つ目は、聖書が教えている“神様の意図”です。神様は、私たちがどういう存在として生きる事を願っておられるのかを、まず、学びます。そして、二つ目として、“それでは、人間が墮落

した姿はどういうものですか”という事です。人間が落ちてしまった墮落の意味を弁えるのが二つ目に学ぶ内容です。

1、神様の意図

まず、“神様の意図”に関して学びます。私達は、問6に基づいて、神様が、私達を“善く”、“神様の像に似せて”、“真の義と聖とに於いて創造された”と学びました。また、神様が、なぜ、そのように創造されたのかも学びました。神様が私達を“善く”、“神様の像に似せて”、“真の義と聖とに於いて創造された”目的は、以下の通りです。

“人間が自分の創造主である神を正しく認識し、心から愛し、永遠の祝福の中に神と共に生き、神をほめたたえ、讚美するためであります。”

この目的を次のように整理することが出来ます。神様が、人を“善く”、“神様の像に似せて”、“真の義と聖とに於いて創造された”目的は、“人と交わりをする為”です。“人と関係を結ぶ為”です

問6の答えに使われている言葉は、交わりに関する事です。神様は、私たちがご自身を1) 正しく認識する事、2) 真心を持って神様を愛する事を願われます。3) 神様は、私たちと共に永遠の祝福の中で生きる事、4) 私たちが神様を褒め称え、讚美する事を願われます。それらは、交わりを示す言葉です。つまり、神様が、私達を“善く”、“神様の像に似せて”、“真の義と聖とに於いて創造された”理由は、私達と“交わり”、つまり、“関係”結ぶつ為であります。

神様と私達の“関係”

神様が私達を創造された目的は、私達と関係を結ぶ為です。神様は、人をご自身の“しもべ”とか、“使い走りをするロボット”として造られたものではありません。まるで、結婚関係のように、新郎と新婦のような関係を持つ存在として造られました。それを神学的な言葉でいうと“神様は私達を契約関係の中で創造”されたと言います。

人々は、神様がどういうお方であるかを、聖書に基づいて学ぶのではなく、自分の経験に基づいて、ただ偉大な神だと思えます。それで、人々は、“人間はその神に比べて取るに足りない存在だ”と思込んでしまいます。しかし、人間に対する聖書の教えは、決して、何の価値もない、無能力な存在だということではありません。

ヨブ記38章には創造の出来事の話が記されています。、神様が現れて全ての出来事に関して、結論を出される内容が記されています。神様は、創造の出来事を語って、ヨブの友達を叱られます。

神様が、創造の出来事を語られた理由は、単に、“創造の出来事は極めて驚異的なもので、あなた達が、果たして、理解出来る業ではない。”すなわち、人間の愚かさを叱責される為ではありません。では、神様は、なぜ、創造の出来事を語られて、ヨブの友達を叱責されたのでしょうか。

神様は創造の出来事の偉大さ、また、創造の出来事がどれほど神秘的な御業であるかを次のように語れます。神様は“大地を据えたとき（38章4節）”を“語られて、“誰がその広がりを選んだかを知っているのか。誰がその上に測り縄を張ったのか。基の柱はどこに沈められたのか。誰が隅の親石を置いたのか。”と質問されます。そして、神様が大地を据えたとき、“そのとき、夜明けの星はこぞって喜び歌い／神の子らは皆、喜びの声をあげた。”と、神様は語られました。

すなわち、神様が、この世を創造された時、大地を据えた出来事は、空の星と、神様のみ使いたちが喜び歌い、喜びの声をあげる偉大なでき事であることを意味します。そして、神様は、朝になること（12～13節）、雨と梅雨が降る事（25～28節）、星を導く事（31～33節）などを語られて、創造の出来事の偉大さ、創造の神秘的な御業を語られました。

では、ヨブ記の内容を背景にして、創世記1章の内容を考えてみましょう。創世記1章に記されている創造の出来事の頂点は何でしょうか。神様が大地を据えられた時でしょうか。神様の創造の出来事の頂点は、大地を据えた時の第二つ目の日、または、第三つ目の日でしょうか。

そうではありません。私たちが知っているように、創世記が記している創造の出来事の頂点は、第二の目の日でも、第三の目の日でもありません。創造の出来事の頂点は、人が創造された第六の日です。¹

では、創造の出来事の頂点でもない、神様が大地を据えられた時に、空の星と神様の御使い達が、喜びの歌をうたったとするならば、創造の出来事の頂点である人が創造された時はどうだったのでしょうか。創造の出来事の全体の中で、人が創造された時の歌声は、大地が据えられた時の歌声よりもっと大きくて、驚くべき事であったでしょう。

全ての被造物が驚くべき創造の出来事の頂点は、神様がご自身の像に似せて人を創造された時です。

愛する皆さん！エデンの園の中を歩いているアダムとエバを考えてみましょう。彼らは、決して、死んで、消えても良い小さな存在ではありませんでした。神様は、彼らを“エデンの園に住ませ、それを耕す”（創世記2章15節）ようにされました。それだけではありません。創世記1章28節には次のように記されています。

“神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」”

神様は、彼らに全ての事を支配する権威を与えて下さいました。それで終わるのではなく、神様は、地の全てのものを彼らに与えて下さいました。（創世記1章29～30節）

¹ 実は、もっと正確に言うと神様が安息された第七の日が創造の出来事の頂点です。しかし、ここでの私の論旨は、被造物の中で“人間”が一番最後に“神様の像に似せて”、尊い存在として創造されたという事なので、創造の頂点と関連して、神様の安息の事を触れませんでした。

また、何より、神様が彼らに与えてくださった一番尊い恵みは、神様が彼らと共に
におられる事です。アダムが、動物達に名前をつけてあげる時、動物達をアダムのところに
持って来たのは、神様です（創世記2章19節）。アダムが独りであるのをご覧になって良くない
と言われたのも、神様です（2章18節）。それらの事が示しているのは、神様が暖かい心
を持って人を見守っておられるという事です。聖書は、“神様が、園の中を歩かれた”と記しています
（3章8節）。神様は墮落以前の創造の世界で、“アダムと共に”歩き回られました。² 墮落以前
のエデンの園は、神様と人が共に交わりをする所でしたし、共に住む所でした。人と神様の関係
は、親密^{しんみつ}でした。

神様とアダムが、そのような契約の関係である事は善悪の知識の木の契約にも表されます。神様
は、アダムに仰せられました。“善悪の知識の木の実を食べてはならない”と（創世記2章17
節）。

これは、結婚関係^{けっこんかんけい}の契約^{けいやく}の特徴^{とくちょう}と同じです。結婚関係^{けっこんかんけい}の基本^{きほん}は、“私があなたを愛し、あなたも
私を愛している、それで、私たちは、相手の真意^{まごころ}を裏切^{うらぎ}ってはならない”という事です。“善悪の知
識の木の実”に対する神様の願いには、関係性^{かんけいせい}と真実性^{しんじつせい}を守るという願いが込められています。
“真意^{まごころ}を守る事”、“私を裏切らない事”、“私と同伴者^{どうはんしゃ}”との関係を持つ続ける事”が、神様がアダム
と結ばれた契約の意味です。

神様が人を創造された時、人に対する神様の願いは明らかです。神様は、私達を“交わりの
対象^{たいしょう}”として造られました。また、私達は、神様の本当の願いを守るように造られました。それら
の全てを「ハイデルベルク教理問答^{ようやく}」は要約^{ようやく}して次のように言い表しています。“創造主である
神を正しく認識^{にんしき}し、心から愛し、永遠の祝福の中に神と共に生き、神をほめたた
え、讚美するためであります。”

神様が、造られた私たちの本来の姿は、神様との交わりの中で、神様と共に生き、神様を正し
く知って、神様を褒め称えるというものです。

2、人間の墮落

しかし、問題は、“人間の行動^{こうどう}”です。今まで、学んだ通り、人を造られた神様の御心は、明白^{めいぱく}
です。神様は、人と真実に交わる事を願われ、全ての被造物の中で一番尊い存在、一番地位の高
い存在として、人を造られました。ここまで、見ると、神様が人に間違っただけの事をされた事は
一つありません。問題は、その次です。人が“契約^{けいやく}”を破^{やぶ}ってしまった事です。アダムが犯
した罪は、“関係を破壊^{はかい}”したことです。私たちは、神様が私たちに願われている事は、“契約
の関係”だと学びました。

² “歩かれた”という言葉の意味は、一回だけの行動を意味するものではありません。習慣的に、繰り返
替えている行動です。また、その言葉は、神様が神殿にご臨在される姿を表す意味として使われま
す。（レビ記26章12；申命記23章14；サムエル記下7章6～7）。『WBC聖書住積』の
創世記3章8節の説明

問6の質問は“人の悲惨の原因はなんですか”という事です。皆さん！いかがでしょうか。人が悲惨の状態に落ちてしまったのが、神様のせいですか。神様がそれを願ったのでしょうか。そうでは決してありません。いくら考えて、あちこちを調べても、**全ての過去の原因は、人の側にあります。**問6をもう一度読みましょう。

“それでは、神が人間を、そんなに悪く、心の捻じれたものに、創造されたのでしょうか。”

この問いに対する答えは明確です。“いいえ、そうではありません。”神様の願いは、人と交わる事、すなわち、関係を結ぶ事です。しかし、人は、その関係を破りました。それで、人が、本来の姿を失って、“悲惨”の状況に落ちてしまった、その絶対的な責任は、人にあります。人が神様との関係を破ったからです。

それで：罪を忌み嫌われる神様

それで、罪の原因が神様だと指摘するのは大間違いです。神様と人の関係の中で、神様が人に対して過ちを犯された事は何一つありません³。神様はアダムに善悪を知る木の実を食べてはならないことを警告されたように、私たちにも、自分勝手な道を歩まないように継続的に警告しておられます。

そして、何より神様は罪を忌み嫌われるお方であると聖書は記しています。詩編5編5節です。

“5 あなたは、決して／逆らう者を喜ぶ神ではありません。悪人は御もとに宿ることを許されず”

コヘレトの言葉7章29節です。

“29 ただし見よ、見いだしたことがある。神は人間をまっすぐに造られたが／人間は複雑な考え方をしたがる、ということ。”

³ アフリカに飢饉で沢山の子ども達が餓死にしています。そのような悲惨な状態を見て、人々は言います。“神が存在するならば、どうして、そのような事が起こるのか。” 大勢の人々が飢饉の原因が神様だと言います。しかし、私達は、飢饉の原因は、神様ではなく人間にある事を弁えなければなりません。飢饉の原因は二つあります。一つ目は、大抵のアフリカの国は、内戦をしている国か、または、少数権力層が富を独占しています。つまり、子ども達が餓えている原因は、戦争を起こした国の首脳部であり、権力を独占した権力者達にあります。二つ目は、全世界の富が、必要な人々に分けていないことです。ある所では、食べ物がないので、餓死にしていますが、ある所では、食べ物があふれて、捨てられています。それで、餓死にしている子ども達を見て、‘神様が不公平’だと思い込んでいる人々の考え方がどれほど間違っているのか、言う必要もありません。すべての原因は、戦争を起こした人間にあり、富を独占している権力者達にあります。

何より、神様の律法は、神様が罪を忌み嫌われるお方であることを、強調して繰り返し替えて記述しています。ローマの信徒への手紙とヨハネの手紙一は、罪を犯す人は、神様に属さず、悪魔に属していると記述しています。

ローマの信徒への手紙 5章 12節

“12 このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。”

ヨハネの手紙一 3章 8節

“8 罪を犯す者は悪魔に属します。悪魔は初めから罪を犯しているからです。悪魔の働きを滅ぼすためにこそ、神の子が現れたのです。”

もう一度整理します。神様は、人を義と聖とに於いて創造されました。極めて善いものとして造られました。神様は、人が契約の恵みの中で神様と共に生きることを願われました。しかし、それを破ったのは人間です。

間違った予定論

それにも関わらず、人々が、神様に悲惨の責任を転嫁する理由は理解しにくいわけでもありません。”神様は全能者である。それで、人が罪を犯すようにしたのも、神様が、すでに定められたからだ”と、人々は思います。それで、人々は言います。これは“運命”だ。これは“予定”だ。これは、“神様の主権”だ。神様が全てのことを、すでに、定められたという名目で、罪さえ、神様の御心によって定められたと思います。そのような間違った考え方の原因は、**間違った予定論にあると私は思います。**

「神様の予定」と言う場合、それは何でもかんでも神様のせいにするということではない
ということ覚えておいて下さい⁴。私たちは、簡単に、ある出来事を見て、“これは神様の予定だ！”と決めつける時があります。ある学生があんまり勉強せず、試験を受けました。当然結果は、良くないでしょう。その時言います。“神様は私が試験を失敗するように予定されました。”ある人が、難病に襲われた時も同じです。“神様があの人が難病にかかるように予定されました。”ある人が転んで怪我をしました。それを見て言います。“神様が予定された事件だ”と

⁴ “予定”という言葉の意味は、救済に関して、神様がすでに定められたことを言い表す時、使う言葉です。一般的に、私たちの生き方の中で起こるすべての出来事を神様が定められたという時は、“予知”と言います。韓国語では“作定”だと言いますが。

人々は、すべての出来事や事柄に対して言い訳を作って、自分の責任から逃げようとしま
す⁵。しかし、責任は、自分自身にあります。試験を失敗したことも、健康管理がよく出来な
かったことも、転んだことも、すべて、自分の責任です。

いかがでしょうか。全能の神様が、すべてのことを予定されたので、なぜ、責任が私達にあ
るというのかと、疑問を抱く方もおられると思います。

神様の予定は、そんなに単純なことではありません。神様の予定は、私たちが完全に
理解できない仕方で、“神様の御心”と“私たちの働き”が混ざりあうことで現され
ます。簡単にいうと神様の予定は、“神様に用いられる私たち”を通して成し遂げら
れます。試みて出来たら “そのように神様が予定された”。試みて出来なかったら、“出来
ないように神様が予定された”というものではありません。それは、運命論です。神様の予定
は、運命論と完全に違います。私たちは次のように告白しなければなりません。“神様が予
定されたその事は、私たちを通して成し遂げられる”と。それで、私たちが行うすべて
の出来事には“責任”が伴います。

運命論には責任がありません。全てが神様の主権の下にあるので、間違っても、よく出来
ても、全てが神様の責任です。それで、間違った全ての責任は神様にあり、人間にはないの
で、神様だけが非難されたら良いという事になります。運命論的に神様の予定を理解するの
は、人間の責任から逃げたいという、罪深い人間の考え方に過ぎません。（予定と予知の説明）

それで、運命論的な予定論では、神様が人に“何かをしなさい”と、命じられる事自体が無
意味です。“しなさい”と命令するのが矛盾であるからです。なぜなら、どのようになるかがす
でに予定されているからです。人に自由意志が与えられた事も、なんの意味もないことになり
ます。なぜなら、すべての事が、どのようになるかが、すでに予定されているからです。しか
し、そのような考え方は、全然、聖書的ではありません。神様はそのようにこの世を統治さ
れるのでは決してありません。

聖書が教えている予定論は、私たちが理解できない神様の神秘的な仕方で、神様が行われる
すべてのことが、私たちを通して成し遂げられるという事です。それで、ある出来事につい
て、私たちの責任が必ずあります。もちろん、私たちが力を尽くして働かないという事で、神
様の予定が外れる事はありません。しかし、その時、私が最善を尽くしたのか、しなかった
のかに対する責任が必ずあるという事です。神様は、聖書で“しなさい”と“してはいけない”こ
とを確かに仰せられたからです。

⁵ 正統的な改革派が誤解されている所です。予定を強調すぎると、すべての責任が神様にあるとい
うことになります。予定は未来を見通すために使うものでは決してありません。予定という言葉
は、一も二にも、救いに感謝するために使わなければいけないものです。

すなわち、神様は、人に選ぶことが出来る力と知恵を与えて下さいました。それで、あることを選ぶ時には、必ず、責任が伴います。つまり、罪を犯したというならば、その責任は必ずその人にあります。なぜなら、神様は、選ぶことが出来る知恵と力を全ての人に与えてくださったからです。

墮落の理解

聖書的な予定論よていろんを持っている人は、創世記に記されている墮落だらく げんいんの原因が人にある事を認めます。神様は、1) 人に“罪を犯すな”と命令されました。2) 神様は、人に罪を犯さないことが出来る力と知恵を与えて下さいました。それで、私は断言して言います。神様は、人が“罪を犯すように”予定されたのでは決してありません。悲惨ひさんに落ちてしまったのは、神様の本来の御心と全く違う、人間の主体的な行動でした。

それで、私たちは次のような結論けつろんに至ります。神様の御心は、私たちが罪を犯さずに、神様の契約の恵みの中で、神様と共に生きる事です。そのために、神様は、私たちをご自身の像に似せて義と聖とに於いて創造されました。

しかし、そこから落ちてしまったのは、全体的に“私たちの責任”であるという事です。なぜなら、神様は、私達に選ぶことが出来る力と知恵を与えてくださったからです。

私たちの状況

それで、契約を破壊はかいした人が直面じょうきょうした状況はどのようなものでしょうか。その答えは、問7の答えと、問8の答えにあります。

“私たちの本性ほんせいは、毒どくされてしまったので、私たちは、すべて、罪の中で孕はらまれ、生まれるのであります。”

問8：しかし、私たちは、善むのうりよくに対しては、全く無能力むのうりよくであり、あらゆる悪かたむ けいこうに傾く傾向を持つほどに、腐敗ふはいしているのでしょうか。

答：そうです。私たちが、神の御霊によって、再び生まれるのではなくれば。

今まで、私たちは、契約を“関係けいやく かんけいの意味”で理解しました。それで、契約の破壊はかいも、“関係の意味”で理解しなければなりません。人は、神様と、“真の関係”の中で共に生きていました。しかし、人がその契約を一方的に破やぶってしまいました。それで、人は、“神様となんの関係もない存在”になりました。神様と結ばれている関係が切れられたのです。

“なぜ、アダムが罪を犯したので、子孫である私たちまで、罰を受けなければなりませんか”と疑問ぎもんを抱く人もいます。“関係の意味”で理解して下さい。私たちの状態じょうたいが神様との関係から切られたからです。光がない暗闇の中で、陰生植物いんせいしょくぶつとして育てられた私たちは、絶えず、子孫しそんを産んでも、陰生植物いんせいしょくぶつしか生みません。なぜでしょうか、“私た

ちは、善に対しては、全く無能力であり、あらゆる悪に傾く傾向を持つほどに、
腐敗しているからです。”善と義と聖の源である神様から離れたからです。

私たちのすべての罪、すべての不義は、“神様との関係の断絶”が原因です。墮落以前の人
は、神様と繋がっている人であり、神様の豊かな恵みを味わっている人でした。しかし、人
は、神様と繋がっている命の綱を自分の手で切ってしまったので、暗闇だけを生む存在になり
ました。問8のように、新しい命を与えてくださる神の御霊によって、再び生まれるのではな
ければ、私達は、続けて暗闇の中で住むしかありません。